

環境保健分野研究評価分科会の評価結果について

1. 評価日および場所

平成18年7月26日(水) 於：出島交流会館9階

2. 審査案件

特別研究：事前評価1件 経常研究：事前評価2件

3. 分科会委員

氏名	役職	備考
中島 憲一郎	長崎大学 薬学部 教授	委員長
早瀬 隆司	長崎大学 環境科学部 教授	副委員長
上田 成一	県立長崎シーボルト大学看護栄養学部教授	
葛西 宏直	株式会社 マリン技研 常務取締役	
本田 圭助	NPO法人環境カウンセリング協会長崎 顧問	
森本 浩之輔	長崎大学熱帯医学研究所 助教授	
安武 昭典	三菱重工(株)長崎研究所 化学研究室主席研究員	
山口 優親	西部環境調査(株)代表取締役社長	

4. 総合評価

総合評価段階は下表のとおりであった。

(詳細は別紙総括表を参照)

評価の対象			総合評価段階別内訳				
時点	種類	テーマ数	1	2	3	4	5
事前	経常	2				1	1

総合評価の段階

- 1：不相当であり採択すべきでない。
- 2：大幅な見直しが必要である。
- 3：一部見直しが必要である。
- 4：概ね相当であり採択してよい。
- 5：相当であり是非採択すべきである。

研究テーマ別評価段階一覧表

時点	種類	研究テーマ名	研究機関	総合評価段階	
				機関長 自己評 価	分科会 評価
事前	特別	温泉・浴場施設におけるレジオネラリスクのオンサイト評価方法の確立に関する研究	衛生公害 研究所	4	-
事前	経常	底生水産生物を利用したメンテナンスフリー型内湾環境修復技術の開発	衛生公害 研究所	4	4
事前	経常	野生動物の病原体保有状況に関する研究	衛生公害 研究所	4	5

5. 研究テーマ別コメント

(1) 特別研究(事前)

「温泉・浴場施設におけるレジオネラリスクのオンサイト評価方法の確立に関する研究」

必要性：県民の生命に関わることであり、温泉の多い本県では研究の必要性は高い。県の研究機関がイニシアティブをとるのに適した研究である。

効率性：フローサイトメトリーを含めたオンサイト評価方法は効率的な方法であるが、フローサイトメトリーの小型化、簡便性をより重視したものにすべきである。

有効性：他の研究機関で取り組まれている方法も検討すべき、そのような情報をきちっと捕まえて、より有効な方法に持って行って、市場性を高めてもらいたい。

総合評価：有効性に不透明な点があるとの意見もあったが、人の

健康に関することであり、また、基礎的な研究がすでになされていることもあることから、分科会としては「進めてよい」との意見を結論としたい。

(2) 経常研究(事前)

「底生水産生物を利用したメンテナンスフリー型内湾環境修復技術の開発」

必要性：底生生物を活用した環境修復の研究は必要である。今後重点的に解明していく分野であり興味深い。

効率性：データを蓄積していくということと相手が生物であるということで、研究期間は3年は必要と思われるが、他の共同研究機関と連携を密にして効率化を図るべきである。類似研究に対する事前評価をしっかりともらいたい。

有効性：実用性について困難な課題が予想される。本当に技術が確立されていくとナマコなど他の魚介類への応用など将来につながるような研究になること、環境に配慮した公共事業、貝類の漁獲量の増産につながることを期待したい。

総合評価：研究期間の短縮、データの検証、できるだけ効率的に推進し、アサリ以後の研究に繋がるようにしてもらいたい。

「野生動物の病原体保有状況に関する研究」

必要性：地域から研究推進のニーズもあり、また、動物の感染性微生物は地域多様性が高く、学問的にも必要な研究である。

効率性：他の研究機関と連携をとり、結果をハザードマップや管理マニュアルに活用できる。

有効性：食の安全という観点から有効である。各研究機関から集まってくるデータの公表に当たっては細心の注意が必要である。

総合評価：他の研究機関と連携を効率的に行い、また、データの公表については、細心の注意を払う必要がある。適当であり是非採択すべきである。

6. 分科会総評

市場は小さいかも知れないが、県民の生命、食の安全、社会情勢から県研究機関が取り組むべき公益性の高い研究である。そのような研究を進めるに当たっても現状の対策や被害と研究の関わりに関する説明、他の研究機関で取り組まれている研究内容など事前の調査、検討を十分行う必要がある。

新たな方法を取り入れる場合は公定法との比較を行い、精度の確保やコストの検討も必要である。

生物に関することは時間がかかるものであるが、他の研究機関との連携や別の方法の検討などを行い、効率的に実施する必要がある。

社会性があるものについては情報の伝達は適切に行われるべきであり、また、関係者や県民の意識改革を根気強く進め努力も必要である。

(参考) 環境保健分科会評価結果

時点	研究テーマ名	項目	評点	評価段階
事前	底生水産生物を利用したメンテナンスフリー型内湾環境修復技術の開発	必要性	4.3	4
		効率性	3.5	
		有効性	3.5	
		平均	3.8	
事前	野生動物の病原体保有状況に関する研究	必要性	4.8	5
		効率性	4.3	
		有効性	4.5	
		平均	4.5	